

## 横田基地、「ヒスパニック文化遺産月間」を終える National Hispanic Heritage Month wraps up at Yokota

October 16, 2024

By Airman 1st Class David S. Calcote  
374th Airlift Wing Public Affairs

米軍に所属するメンバーの伝統を称え、横田基地では9月15日から10月15日までの「全米ヒスパニック文化遺産月間」に、米国史におけるヒスパニック系アメリカ人の貢献を振り返るさまざまな催しが行われた。

「全米ヒスパニック文化遺産月間」は、1968年に当時のリンデン・ジョンソン大統領が宣言した「ヒスパニック伝統週間」として始まり、その後ロナルド・レーガン大統領によって月間の行事に拡大された。この月間は、空軍の中で共有される文化の認識を高め、貢献を称える目的で設けられている。

今年のテーマは、「変革の先駆者たち：未来をかたち作る」。

第374運用医療即応中隊メンタルヘルス技師のイエセニア・ディアス上級空兵は、「全米ヒスパニック文化遺産月間は、自身の文化を祝い、民族的ルーツと繋がる機会だ」と語り、「空軍の仲間とその思い出を共有できることは特別なことだ」と述べた。

「全米ヒスパニック文化遺産月間」は、横田エクステンジで行われたケーキカット式典で幕を開けた。

第374歯科中隊司令アイリス・オーティス・ゴンザレス大佐は、「ヒスパニック文化遺産月間の開始を、本日皆と一緒に祝えることは特権であり、大変光栄に思う。この月間は、我々の大国におけるヒスパニック系およびラテン系のコミュニティの豊かな文化、伝統、貢献を称える機会だ」と挨拶した。

9月にはプロフェッショナル・ディベロップメント・センターで、ヒスパニック系の子供向け夜間映画会が開催された。

10月には第36空輸中隊によるオリエンテーション・フライトが行われ、C-130Jスーパーハーキュリーズ、C-12ヒューロン、UH-1Nヒューイのいずれかに搭乗する機会が設けられた。

第36空輸中隊パイロットのアイザック・ペレス大尉は「オリエンテーション・フライトは、ヒスパニック文化遺産を記念する機会だ。主にヒスパニック系のメンバーが参加したが、航空団の任務を広く知ってもらえるように、誰でも参加することができた」と述べた。

全米ヒスパニック文化遺産月間は、空軍が多様な部隊のストーリーや文化遺産に焦点を当て、それを祝う機会となっている。

オーティス・ゴンザレス大佐は、「ヒスパニック系アメリカ人が果たした貢献を称えるとき、彼らが体現してきた価値観、すなわち勇気、名誉、そして揺るぎない奉仕を思い返そう。それぞれのコミュニティに宿る決断の精神と多様性が強さの源であることを思い起させてくれる」と語った。

